

明日への胎動



出来ないと思ひ者の多いことです。もちろん簡単に規模拡大の問題やら資金関係が解決するはずがなく、年月をかけて理想に向って一歩々々積み重ねなければなりません。しかし青年特有の意欲はデッカイ夢となって現われ、その夢が根底から瓦解する時、青年は自暴自棄に落ちる恐れがあるのです。

今日もまたその例としてこの春卒業したばかりの一人が親と意見が合わず、ついに家を飛び出したという知らせが届きました。子供の夢が少しでもかなえられような親の理解と周囲の協力が是非必要ですが、また後継者自ら徒らに甘えることなくあらゆる困難を最善の努力によって切り開いていこうとする、強い根性を養うことがより大切ではなからうかと思ひます。学校の内申書に温厚で素直だとか、まじめで堅実といった表現で評価された者が多いのですが、これに加えて覇気の足りないという面の補いを如何に養成するか問題でありましょう。

励ましあう先輩と後輩

在校生にとって、卒業生の活躍など勇気づけられ、やる気を起させるものはありません。論より証拠というところで、そしてこの点では昨年は本当に若い卒業生の皆さんが頑張ってもらい、よい刺激を先輩に与えてもらいました。

や卒業初年目にして水稲直播栽培一ヘクタールを見事平均反収一〇俵以上も収穫したS君、また卒業と同時に六人共同の果樹園経営に踏み込んだN君の活躍など本当によい例となりました。

また阿蘇地方で行なっている卒業生グループの週一度のあぜぐる研究会などは自分お互いを励ます機会となりましょう。また益城町では関係機関が丸ととなり中学時代から後継者をチェックし、実情を把握しながら養成機関に強力な推進を行ない、その後は激励と連絡を保ち卒業後は親子協議の場をつくりながら理解を深め、同窓会組織の強化発展を促進するなど町の農業振興と結びつけながら一人の跡継ぎを一貫した計画の中で養成される姿は、将来の繁栄が約束づけられているように思ひます。

土に生き、村を愛し、農業を心から愛しむ人々の人生哲学は、作物に対する愛情であり、努力であり、誠実、信用、そして根性であり、創造性であるといえます。

しかし今日の農村青年はただ黙々として実践する農民だけでは満足するものではなく、そこに問題意識をもち、計画性と批判力をもった実践者となるよう努力しているに違ひありません。

繰り返えしとあきらめの中に安住する青年でなく、問題と正面から取組みこれを解決してゆこうと努力する者にこそ最

★施設紹介★

すべてが女性の手に

県経営伝習農場菊池農場では、現在、中学を卒業して、この春、農場に入った一三人の本科生と、農場二年目の研究科生二人、あわせて二五人の女子生徒が、全寮制による共同生活の中でこれからの農村婦人としてふさわしい知識と技術を身につけようと、熱心に訓練にとりこんでいる。

菊池農場は、昭和二十三年から昨年度まで男女共学だったが、本年度から女子だけの農場として新しく衣替えをしたもの。女子専門の農場は、全国五六カ所の経営伝習農場の内、この菊池農場の他には長崎県に一方所あるだけ。その点、異色のある存在でもある。

ところで、女子生徒だけの農場といえはなんとなく家庭的な課目が多いような感じだが、教育内容は、男子だけの農場である城南町や鹿本町にある経営伝習農場に勝るとも劣らないほどだ。

農場の教育方法は、生徒自らを農場経営に積極的に参加させて、農業経営と農家生活についての基礎的な知識と技術を学んでもらおうというもの。それだけに、一年の



花までいけから機運耕

— 熊本県経営伝習農場菊池分場 —

研修時間の六四割に当る一、三六〇時間が普通作、野菜、花卉、果樹、畜産、しいたけ栽培などの生産実習に当てられている。種作を例にとっても、それこそあぜ塗から整地、田植、防除など全てが女子生徒の手で行なわれるわけだ。搾乳にしても、養鶏にしてもそうである。男手といったら、職員と、城南町の伝習農場から、六月から十一月の間、十五日交代でくる一〇人の交換実習生だけ。加えて将来の農家の主婦として、いわば「花嫁修業」としての勉強もみっちり行なわれ、和裁、洋裁から生花、料理など家庭科実習にも年間二〇三時間が組まれている。

新しい農家のイメージを胸に

農場の朝は早い。毎朝五時半の起床も、若い彼女たちには大変なことではない。しかし、農場で実習する生徒たちは底抜けに明るい。そして実に真剣だ。研修期間は一年。その間に学ぶものすべてが、将来の彼女たちの農家経営、あるいは農村生活に密着しているだけに、つい熱がはいり勝ちになるのも無理はない。生徒の中には、養子を迎えて家を継ぐ、いわゆる跡とり娘さんが二人、耕耘機にも自分からとりこんでいくという。

農場が設立されてから三十二年。そして昭和二十一年に女子部が設けられて以来、昨年で満二十年になった。女子の卒業生も六〇〇人を数える。その殆どの人が、農家の主婦として農村婦人の中核的な役割を果している。

農業に生きる一この目標に向かって、研鑽する二五人の女生徒たちの胸裡には、現実の農村の上に、更に限らない新しい農村農家の未来像がえがかれているようだ。

後の勝利が必ずおとずれますことを信じつつ前途有望な若人が一人でも多く農業

に志ざすことを切望してやみません。
(熊本県経営伝習農場長)